

第39回土木史研究発表会

1. 主催 土木学会（担当：土木史委員会 <http://www.jsce.or.jp/committee/hsce/index.htm>）
2. 期 日 2019（令和元）年6月22日（土）・23日（日）
3. 会 場 日本大学理工学部（東京都千代田区神田駿河台1-8-14）
電車でのアクセス
JR中央・総武線「御茶ノ水」駅 下車徒歩3分
東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅 下車徒歩3分
東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水」駅 下車徒歩5分
<https://www.cst.nihon-u.ac.jp/campus/surugadai/>
4. 参加費 会員・非会員：5,000円
学生：2,000円
講演集販売：4,500円
※ 土木史委員会のホームページをご参照のうえ、6月12日（水）までの事前申込期間に申込を済ませてください。
5. 懇親会 1）日 時：2019（令和元）年6月22日（土） 18:00～19:45（予定）
2）会 場：日本大学理工学部 タワースコラ 1階 カフェテリア
3）参加費：一般：4,000円、学生：1,000円
4）参加方法：当日会場受付で申し受けます
昼休みには各種小委員会の会議が予定されています。詳しくは、後日、各委員会よりご案内いたします。

【同時開催】土木史委員会HPにて詳細をご確認ください。

◇見学会（土木学会主催）

国史跡 常盤橋門跡・常盤橋（石造アーチ；1877 竣工）の、解体修理工事現場の見学

- 1）日 時：2019（令和元）年6月21日（金） 13時00分～15時00分（予定）、集合場所：渋沢栄一像前（12時50分）
- 2）参加費：無料（見学会当日に保険代を徴収させていただきます。領収書は発行いたしません）
- 3）解説者：中井祐（東京大学）、西村祐人（文化財保存計画協会）
- 4）参加方法：詳細は、土木史委員会HPでご案内しています。
参加ご希望の方は、6月12日（水）までに下記URL より事前のお申し込みをお願いいたします。（定員30名）
参加申込Web：<http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp>

◇セミナー（土木学会・パブリックデザインコンソーシアム主催、日本大学理工学部土木工学科・まちづくり工学科共催）

2025大阪万博への期待と1970大阪万博の環境デザインの軌跡

- 1）日 時：2019（令和元）年6月21日（金） 15時00分～18時00分（受付開始時刻14:30）
- 2）会 場：日本大学理工学部 1号館3階132教室
- 3）参加費：会員 1,000円、非会員 2,000円、学生無料
- 4）基調講演として、1970年大阪万博において当時設計に携われた曽根幸一氏を講師にお迎えし、シンボルマーク、ピクトグラフ、標識、色彩、照明、ファニチャー、屋外アート、ユニフォーム、ポスター等、現在の専門分野へそれぞれ展開していった環境デザインの軌跡等のご講演をいただく予定です。

◇シンポジウム『土木史から22世紀の国づくりを考える』（土木学会主催）

- 1）日 時：2019（令和元）年6月22日（土） 16:00～18:00（受付開始時刻 14:30）
- 2）会 場：日本大学理工学部 1号館4階141教室
- 3）参加費：無料（シンポジウム会場受付にて、ご記名をお願いします）

7. プログラム

◆6月22日(土)

※会場は、変更になる場合があります

時間	第1会場(1号館4階142教室)	第2会場(1号館4階143教室)
9:45	開会挨拶 土木史委員会委員長 知野 泰明	
10:00	【土木遺産の保存と活用】(企画) 司会:天野 光一(日本大学)	【戦後土木施設】(企画) 司会:知野 泰明(日本大学)
	1 農業用水隧道「鼻んす」の保存に向けた技術的評価	10 戦後土木施設の歴史・文化的価値の評価方法に関する考察 ★
	1 本田泰寛(第一工業大学)・比良剛也・岩波基	49 阿部貴弘(日本大学)・佐々木葉・岡田一天・小野田滋・北河大二郎・土井祥子
	2 用郷林道“七曲がり”の実態とその保存活用に向けて ★	11 縦貫道イデオロギーに基づく東北自動車道の路線計画とその結果の諸相 ★
	7 樋口輝久(岡山大学)・浜元宏明・秋田哲志・篠原智	53 阿部公一(ネクスコ・エンジニアリング東北)
	3 熊本県の歴史的農業水利遺産の利活用に関する研究 ★	12 戦後土木施設としての砂防施設の歴史・文化的価値の評価基準に関する一考察 ★
	11 田中尚人(熊本大学)・園田一樹	57 澤陽之(岩手大学)・小川紀一朗
	4 隅田川に架かる橋梁と周辺環境を対象とした橋梁ガイドマップの作成に関する研究	13 戦後復興期～高度成長期における 地下鉄建設技術の発達について
	23 鈴木圭(日本大学)・榎森至・石崎裕太	61 小野田滋(鉄道総合技術研究所)
	5 フットパスと身近な土木遺産に関する一考察 ★	14 首都高速道路の路線網計画および構造物設計の思想と手法に関する通史的考察 ★
12:05	27 寺村淳(九州大学)・島谷幸宏	69 小澤広直(早稲田大学)・佐々木葉
13:05	討論会「近年の土木史(関連)研究の動向」(1号館4階141教室)	
13:55	土木史委員会 教育・研究推進小委員会 司会:阿部貴弘, 発表:五十畑弘・土田宏成・真田純子・岩本一将	
14:10	【土木史の活用(観光・教育)】(企画) 司会:山口 敬太(京都大学)	【河川・水理】 司会:岡田 一天(プランニングネットワーク)
	6 土木遺産ツアーにおける土木コミュニケーションに関する研究(その3) ★	15 戦前の鴨川改修計画における河川構造物の風致維持手法とその継承実態 ★
	33 原口征人(北海道開発技術センター)・岩田圭佑・今尚之・石川成昭	81 栢原佑輔(関西大学)・林倫子・荻野幹・谷川陸
	7 JR柳ヶ浦駅周辺整備事業における記憶遺産プロジェクト試行の中間報告	16 A RESEARCH ON THE HYDRAULIC SYSTEM FOR MANDALAY, THE LAST ROYAL CITY OF BURMESE KINGDOM
	37 永村景子(日本大学)・清水俊樹	89 山田耕治(玉野総合コンサルタント)・森勇士
	8『図説 近代日本土木史』の教材としての活用実践	17 唐人川石塘に関する一考察 ★
	43 阿部貴弘(日本大学)	97 寺村淳(九州大学)・田中尚人・西山穂・島谷幸宏
	9 小学校社会における土木史題材の取り上げについて	18 Eco-DRRとしての日本の伝統的水管理技術 ★
15:50	45 今尚之(北海道教育大学)・原口征人・岩田圭佑	103 寺村淳(九州大学)・島谷幸宏
16:10	シンポジウム(1号館4階141教室)	
	シンポジウム 『土木史から22世紀の国づくりを考える』 ● 基調講演 日本人の伝統的自然観とこれから ―「山川草木悉有仏性」に学ぶ (50分) 講演者 : 大熊 孝(NPO法人「NPO新潟水辺の会」顧問, 新潟大学名誉教授, 元土木史研究委員会委員長) (休憩:10分) ● パネルディスカッション (60分) パネリスト 西村 幸夫(神戸芸術工科大学教授副学長, 東京大学名誉教授, 日本イコモス国内委員会委員長) 大熊 孝(同上) 知野 泰明(日本大学准教授, 土木史委員会委員長) 18:00 コーディネーター 田中 尚人(熊本大学准教授, 土木史委員会副委員長)	

◆6月23日(日)

※会場は、変更になる場合があります

時間	第1会場(1号館4階142教室)	第2会場(1号館4階143教室)
9:00	【橋 梁】 司会:鈴木 圭(日本大学)	【災害と土木史①】(企画) 司会:島谷 幸宏(九州大学)
	19 高田雪太郎と私設二代目笹津橋	35 東京都東部低地帯における水害を考慮した神社と祭神に関する考察 ★
	109 貴堂巖	203 後藤浩(日本大学)・下村祐輔・竹澤三雄
	20 1893(明治26)年竣工のコンクリートアーチ橋 八尾眼鏡橋(その3) ★	36 平成27年9月関東・東北豪雨被災地における水害対策の継承に関する調査―敷地単位の水害対策に着目して― ★
	113 長谷川洌(八尾生コン)	209 松崎翔矢(印旛福祉会)・阿部貴弘
	21 北海道と台湾の200ftダブルワーレントラス鉄橋	37 土木史研究としての水害オーラルヒストリー調査の成果と意義―滋賀県水害履歴調査の経験を通して―
	119 石川成昭(日本データサービス)・木下宏	213 林倫子(関西大学)
	22 橋は何故落ちたか(その2)―五重塔に学べ	38 江戸初期の北上川下流域における河川改修と新田開発
10:40	127 福島啓一	217 金山美月(東京建設コンサルタント)・平野勝也
10:55	【変遷と評価】 司会:佐々木 葉(早稲田大学)	【災害と土木史②】(企画) 司会:平野 勝也(東北大学)
	23 木塊舗装の技術的変遷に関する文献調査―道庁正門前木塊舗装の考察に向けて― ★	39 『石川県災異誌』を用いた近世期における災害に関する研究
	135 岩田圭佑(寒地土木研究所)・原口征人・今尚之	223 吉川真裕(金沢大学)・馬場先恵子
	24 馬車鉄道・索道の交通史的評価―碓氷馬車鉄道などの事例をもとに―	40 近世最大の砂防施設群“別所砂留”(第四報) ― 七番砂留にみる災害と修復の履歴 ―
	141 山浦直人(千代田コンサルタント)	229 樋口輝久(岡山大学)・秋田哲志
	25 英国の歴史的橋梁保全における デザイン諮問機関の役割-Royal Fine Art Commission議事録1924-1939の分析- ★	41 熊本城跡における物理探査による表層地盤構造の把握
	149 榎本碧(寒地土木研究所)	233 山中稔(香川大学)・杉本知史・福田直三・前田秀喜・吉村辰朗
	26 歴史的鋼橋の評価に関する考察―各種評価形態における土木遺産の比較を通じて―	42 大規模自然災害による歴史的土木建造物の被災状況調査に関する考察
12:35	153 菊池健司(鉄建建設)・永村景子・五十畑弘	241 阿部貴弘(日本大学)・木村優介
13:35	【人物・史料①】 司会:白井 芳樹(全日本土地区画整理士会)	【都 市】 司会:梁瀬 範彦(日本都市技術)
	27 『徳川実紀』にみる 江戸時代前中期の道路行政制度―「橋梁」に関する事項に着目して― ★	43 戦前期電力事業者の需要拡大と家庭への影響
	157 西山孝樹(日本大学)・藤田龍之・天野光一	243 高部裕介(東京工業大学)・真田純子
	28 「地方口傳書」にみる大畑才藏考案の水盛台の進歩と使用法に関する研究 ★	44 鉄道高架下の土地利用変遷に関する研究―近代に建設された市街線高架橋を事例として―
	169 知野泰明(日本大学)	247 新保貴浩(日本都市技術)・阿部貴弘
	29 オランダ人土木技師Mulderの設計理念―オランダで発見した新史料を中心として― ★	45 戦後の臨海部における埋立法と土地利用に関する研究
	173 岩本一将(国土技術政策総合研究所)	259 江崎翼(目黒区役所)・阿部貴弘
	30 明治大正期における「水理学」の名称の考察	46 長崎市における近世以降の斜面地階段の空間変容 ★
15:15	179 安井雅彦(パスコ)・富永晃宏	269 石橋知也(長崎大学)・下釜勇輝
15:30	【人物・史料②】 司会:今 尚之(北海道教育大学)	【石造構造物】 司会:五十畑 弘(道路文化研究所)
	31 八田興一とアメリカ土木界	47 熊本城郭石垣控えと動的安定性 ★
	183 武長玄次郎(木更津高専)	279 福田光治(大成ジオテック)
	32 国立国会図書館憲政資料室で閲覧できる土木史関係資料について その6	48 熊本城の被災石垣の変状計測とその定量的分析 ★
	187 土田宏成(聖心女子大学)	287 杉本知史(長崎大学)・石塚洋一・高江洲竜馬・山中稔
	33 戦後における国土保全論の勃興と国民啓蒙	49 富山県営立山砂防20年～明治の着手から大正の終焉まで～ ★
	191 奈良岡聰智(京都大学)・内藤一成・岡本貴久子	293 白井芳樹
	34 有人国境離島法の成立背景 ★	50 富山県営立山砂防により湯川に築造された6堰堤 ★
17:10	195 久保田恵都子(中央大学)	301 白井芳樹
17:20	若手優秀講演賞表彰 土木史委員会発表小委員会	
17:30	総括および閉会挨拶 土木史委員会幹事長 阿部 貴弘	